



コロナ禍のはじまり

(うまエッセイ 25)

娘が小学校生活に慣れ、馬の学校のプログラムも充実してきたころ、新型コロナによる休校、そして緊急事態宣言が発令されました。子どもたちは、友達に会うことも、公園で遊ぶこともできなくなりました。我が家は同じマンションの子どもたちと、時間を決めてわずかなスペースで遊んでいましたが、うるさいと苦情が来ることも…。遊べない子どもたちも、その不満を受け止める親たちも大変でした。そんな中で、学生時代からお世話になっていた小須田牧場のオーナー小須田稔さんが亡くなりました。馬と一緒に仕事をするだけでなく、生き方にも大きな影響を受けました。「峯崎は、峯崎らしく居ろよ」稔さんにはいつもそう言われていました。そして、私が最も峯崎らしく居られるのが、小須田牧場でした。一つ一つのプログラムを積み上げていくことを支えてくれ、どんな時でも応援してくれていた。悲しみの中で、稔さんとの出会いに恥じない生き方をしたいと心に決めました。

いろいろな制限の中でストレスを受けた娘は、学校が再開する少し前から精神的に不安定となることが多く、かなり早い思春期と反抗期が一度にやってきたような日々になりました。こんな時は、小須田牧場に行くしかない!と思いました。学校を休んでも行くべきだと。馬友達の親子に声をかけ、大好きなペンションHimawariに泊まり、友達と一緒にミルキーに乗ったり、草をあげたり。安心できる馬たちがいる牧場と、仲良しのお友だちと、あたたかなおもてなしで迎えてくれたペンション、そのすべてが娘のイライラした心をそっと包み込んでくれたようでした。そんな時間を過ごした娘は、帰宅後は見違えるほどに落ち着きを取り戻していました。

コロナ禍ではオンラインでできることも増えました。でも子どもたちには、オンラインでのかかわりだけではなく、いのちとふれあう機会が必要で、その時間が子どもたちの感性を育てていくのだと、娘たちの姿を見て改めて実感しました。自然の風やい

おいを感じ、安心できる環境でゆっくりと馬との時間を過ごす。それは今だからこそ、必要なことだと考え、コロナ禍でもできる範囲でプログラムを行っていくことにしました。



オススの本の

『草をはむ』 おくはらゆめ/講談社



1日中、
草をはむっていいな。

しまうまの一日が紹介されている絵本です。朝も昼も夜も、草をはむしまうまたち。野生の馬たちは、18時間も草をはんでいるとのこと。どうりで、ミルキー&アキオは食いしん坊なんだ!と納得できるかもしれません。素朴だけれどもインパクトのある絵で、草をはみ続けるしまうまの気持ちがちょっとわかるような気がしてきます。「かめばかむほど味が出る絵本」とのこと。ぜひかんでみてください。

編集後記

八ヶ岳南麓 URAYAMA で活動を始めて1年が経ちました。無我夢中の1年でしたが、ミルキーフレンズやアフタースクールに通ってくれる子どもたちも増え、ミルキー&アキオと共に子どもたちの成長を見守れることが何よりも嬉しいです。そして馬の学校を始めてからは25年が経ちました。「今できること」を大切に積み重ねてきて今に至りますが、その間に参加して下さいみなさん、そして活動を支えて下さった乗馬施設の方々、応援し続けてくださる家族や友人に心から感謝しています。馬の学校の活動を通して出逢った皆さんとのつながりが、私の財産だと思っています。

娘は、中学校生活にも慣れてきました。部活は吹奏楽部に入り、クラリネットを吹いています。練習日も多く、ハードな日々ですが、楽しくやっているようで何よりです。馬の学校のお手伝いはあまりできなくなりましたが、その分ミルキーフレンズの子どもたちが活躍してくれて助かっています。(峯崎 友香理)



会費のお振込み、ありがとうございます。

今年度も多くの方に馬の学校の会員になっていただき、心から感謝申し上げます。みなさまからの応援が支えとなり、ミルキーと共に歩んでいく勇気をいただいています。会員はいつでも募集中!ぜひミルキーにも会いにいらしてください。

馬の学校通信のバックナンバーはこちらからご覧になれます。→



発行 馬の学校 Milky Way

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 3107 八ヶ岳南麓 URAYAMA

TEL/FAX: 0551-30-4397 E-mail: umanogakkou@yahoo.ne.jp

ホームページ: <http://www.horseschool.org>

第一種動物取扱業(展示)登録番号: 第 2241008 号 動物取扱責任者: 中井(峯崎)友香理



馬の学校

MILKY WAY

通信



<馬のお仕事体験>
始まるよー